第3学年3組学級活動（1）学習指導案

町田市立　小山小学校
2026年11月13日（金）5時間目
対象　第３学年３組　３２名
指導者　教諭　山根陽太郎

1 議題「秋の工作祭りをしよう」

2 議題について

（1）児童について（児童観）

本学級は、何事も前向きに学級全体で支えようとする思いが強い児童が多く、授業でも前向きに取り組む児童が多い。体育のマット運動では、前転や後転を行うとき、お互いに技カードを見ながらアドバイスし合うことができている。また、自分の思いを堂々と発信できる児童が一定数いる。一方で自分のことに夢中になると切り替えの時間がかかる場面や、表現の仕方にも課題が見られる。また、引っ込み思案で自分の思いを書くことや限られた場面でしか表現できない児童もおり、全員が「自己理解」を深め、自分らしさを発揮できていないと感じる。そこで本時では、学級全体が自分の思いを伝えられ、また他者の思いもくみ取り、自己理解と他者理解の力を育てていきたいと考える。

（2）今までの話合い活動

月日	話合い活動	「議題名」・児童の様子 ◇教師の指導
4/24	第1回	「クラスの友達のことをもっと知ろう」 ・何を発言していいのか迷っている児童が多く見られた。 ・相手の発言を聞く前に話し始める児童が見られた。 ◇45 分という限られた時間で完結することを全体で共通認識をもたせた。 ◇提案理由に沿った意見が出せたことで納得してみんなで決められたことを振り返り、提案理由に沿うことの大切さを全体で共通認識をもたせた。
6/12	第2回	「3 年 3 組学級目標をつくろう」 ・提案に沿った意見がたくさん出て、それをまとめてつなげるということができた。 ・心配意見に対して、納得する意見を出し合えることができた。 ◇心配意見に対して、全員が納得する意見の言い方、説明の行い方があることを共通認識をもたせた。 （※心配意見　4研究主題に迫るためのてだて【他者受容】①参照）
7/10	第3回	「夏のイベントをしよう」 ・一人一人が提案理由に沿った意見をもつことができ、活発した話合いを行うことができた。 ・全員が納得できるような意見をもち、発言できるようになった。 ◇聞くだけの児童も「反応のあいうえお」を意識して全員が学級会に参加することの共通認識を再度もたせた。
9/8	第４回	「係を決めよう」 ・クラスをよりよくするための意見が多く見られた。 ・心配意見も隠さずに相手に聞くことができた。 ◇似ている係をまとめたりして、たくさん出た意見を整理できるということの共通認識をもたせた。
9/30	第5回	「3年3組のキャラクターを作ろう」 ・45 分で意見をまとめようとする意識が学級全体で高くなっている。 ・議題からそれてしまったときに本議題にもどる時間がかかってしまった。 ◇意見がたくさん出たときにまとめることや、つなげることの意識を学級全体で共通認識をもたせた。
10/16	第6回	「オヤマリンピックのクラスのテーマを決めよう」 ・提案に沿った意見を一人一人がもてるようになった。 ・似た意見をまとめるなど、出た意見を活かそうとする姿が多く見られた。

		◇数多くの意見が出て、選びきれない際に、様々な意見を活かすためにつなげたり、まとめることができることを、再度共通認識をもたせた。
10/30	第７回	「クラスのキャラクターの名前を決めよう」 ・一人一人が自分の意見をもてるようになり、発言する人の偏りが少なくなった。 ・計画委員が困っていたらフロアーから助言をし、学級全体で学級会を進めている。 ◇まとめるのがどうまとめていいかわからない児童が多数いたため、改めてまとめてつなげることの説明をし、共通認識をもたせた。

（3）議題選定の理由

本議題は、児童の議題カードから生まれたものである。

本学級の児童は、オヤマリンピック（運動会）に向けて応援グッズを作成した。応援グッズを作り、一人ではなく協力して作成したことで仲が深まったと実感する児童が多くおり、大きな達成感を味わうことができた。

その中で児童の中から「更にクラスの仲を深めたい」「協力して物を作り、達成感を得たい」という願いが、数多く出た。学級全体で工作をし、仲を深めたいという意思確認を行った。しかし、工作をするだけでは、日常の学校生活で還元しにくい。そのため、秋という季節を活かし、秋のものを使い工作を行い、作った工作を利用し、展示会のようなお祭りをしたいという声が数多くあり、本議題に決定した。

本時の話合いでは、作るものを決めるだけではなく、「どうやって展示するか」「どうやってお客さんを招待するか」「工作を使い、どのようにお祭りを行うか」という創意工夫に重点を置く。自分たちで協力し、ものを作成し、お祭りを成功し、更に学級の仲が深めていきたい。

3 学級活動(1)「学級や学校における生活づくりの参画」の評価規準

	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。学級会の進め方や意見の比べ方、合意形成の仕方を身に付けている。	楽しい学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について、多様な意見のよさを比べ合いながら合意形成を図り、協力して実践している。	よりよい学級生活や人間関係を築くために、見通しをもったり振り返ったりしている。自己のよさを発揮し、多様な他者と協働して取り組もうとしている。

4　研究主題に迫るためのてだて

【自己理解】

① ワークシートを活用して考えを可視化することで、自信をもって参加できるようにする工夫

・全体で手を挙げて発言することに気後れしてしまう児童も、「自分の考えをもっていること」自体を自覚できるようにする。

② 振り返りシートの観点を明確にする工夫

・「自分が頑張ったこと」を記入する際、単に「発言できたか」ではなく、多様な頑張りを見つけられる「視点の視覚化」を提示する。

③ 「頑張りの観点リスト」を提示する工夫

・「発言した」「理由を考えて書いた」「友達の意見を頷きながら聞いた」「自分の考えを柔軟に変えた」「決まったことに賛成した」など。前時の自分から本時までにどのように成長したのか、振り返ることができるよう、学級会ごとの振り返りが一覧で見られるようにする。

【他者受容】

① 多数決に頼らない合意形成のプロセスの工夫

・児童が「賛成・反対」の二項対立で捉えるのではなく、異なる意見の背景にある友達の「学級をよくしたい」という願いや思いに目を向けられるように工夫する。 具体的には、反対意見を「心配意見」とネーミングし、単に反対するだけでなく「ここが心配だから、こうしたらどうかな」と理由と代替案をセットで発言・比較できるようにする。これにより、自分と異なる考えを拒絶するのではなく、「学級をよりよくするための貴重な視点」として受け入れるとともに、納得解に向かって折り合いをつける手だてとする。心配意見も尊重し、折り合いをつけて「新しい考え（折衷案）」や「納得解」をつくる話合いのよさを、実践をもって価値付ける。

② 振り返りで「友達のよかったところ」の具体化

・振り返りシートに自分の言動を振り返るだけでなく、友達のよかったところや思いに注目できるように、「友達のよかったところ」も記入するよう、項目を設定する。話合いのなかで、友達の言動に注目し、よさを見付け、生かすような風土を育てていく。

③ 「つなぎ発言」や話型のモデル提示やリアクションの取り方の掲示

・「〇〇さんに付け足します」など、他者の意見を尊重しながら対話を進めるスキルを身に付ける指導を行う。また、他者の意見を受け入れる雰囲気づくりとして、「あいづち名人」の指導を行い、リアクションの例を掲示する。

④ 板書による思考の可視化・操作化

・意見を短冊で似た者同士で分類・整理して意見の共通点や相違点を目に見える形にする。それぞれのよさを生かした学級の納得解を見付けられるよう、思考を可視化することで、一つ一つの意見のよさや違いを明確にする。

5 事前の活動

日時	児童の活動		指導上の留意点
	計画委員会の活動	学級全体の活動	
11/2（月）中休み	・議題を確認する。		・学級の現状を踏まえて、どの議題について話し合ったらよいか考えながら選べるようにする。
給食の時間 帰りの会		・計画委員会で確認した議題案から、学級全体で議題を選定する。	・学級全体で、議題に対して共通の課題意識をもって選定できるようにする。
11/4（水）中休み	・司会グループの役割分担をする。 ・提案理由を深める。		・提案者の思いがより伝わるよう、「思いの軸」が引き出し、提案理由がつくれるようにする。
帰りの会		・提案理由と話し合うことを確認する。	・提案者が思いを伝え、学級全体が議題に向けて共通理解ができるようにする。 ・話合いの流れを全員で共有できるようにする。
11/5（木）朝の会		・提案理由に対し学級で共通認識をもつ。	・提案者の思いを具体化し、学級全体が共通認識をもてるようにする。

中休み	・話合いの進め方の確認 （学級会シートの作成）		・話し合うことと決まっていることが明確になるように助言する。
帰りの会	・学級会シートを配布する。		
11/6 （金） 朝の会		・決まっていることを確認し、学級会シートに自分の考えを記入する。	
中休み	・回収したシートを確認し、出ている意見を整理して書き出す。		・提案理由に沿っている考えには、印をつけるよう助言する。
11/9 （月） 中休み	・どのような流れで話し合うか、考える。 ・活動計画を作成する。		・それぞれの役割がどのように行動したらよいか、見通しがもてるようにする。 ・これまでの学級会を振り返り、どのようなことに気を付けていけばよいか、計画委員で共通認識がもてるようにする。
帰りの会	・書き出したアイデアをクラスルームで共有し、告知する。		・友達の考えに触れるなかで、新たに意見をもってもよいことを伝える。
11/10 （火） 中休み	・活動計画を作成する。 ・それぞれの役割で気を付けたいことを再度確認する。		・話合いの進め方について助言する。
11/11 （水） 中休み	・板書の準備を行う。		
11/12 （木） 中休み	・リハーサル		

6 本時の展開

（1）議題

「秋の工作祭りをしよう」

（2）ねらい

多様な考えを受け入れ、生かしながら、多様な意見をまとめていく力を身に付ける

（3）提案理由

オヤマリンピックの応援グッズをみんなで作り、学級の仲が深まった。他にも協力してものを作り、学級の仲を更に深めたい。だから、秋のものを使い協力して工作をし、作ったものでお祭りをしたい。協力することで思いやりがあり、クラスみんな仲がよい学級になりたい。

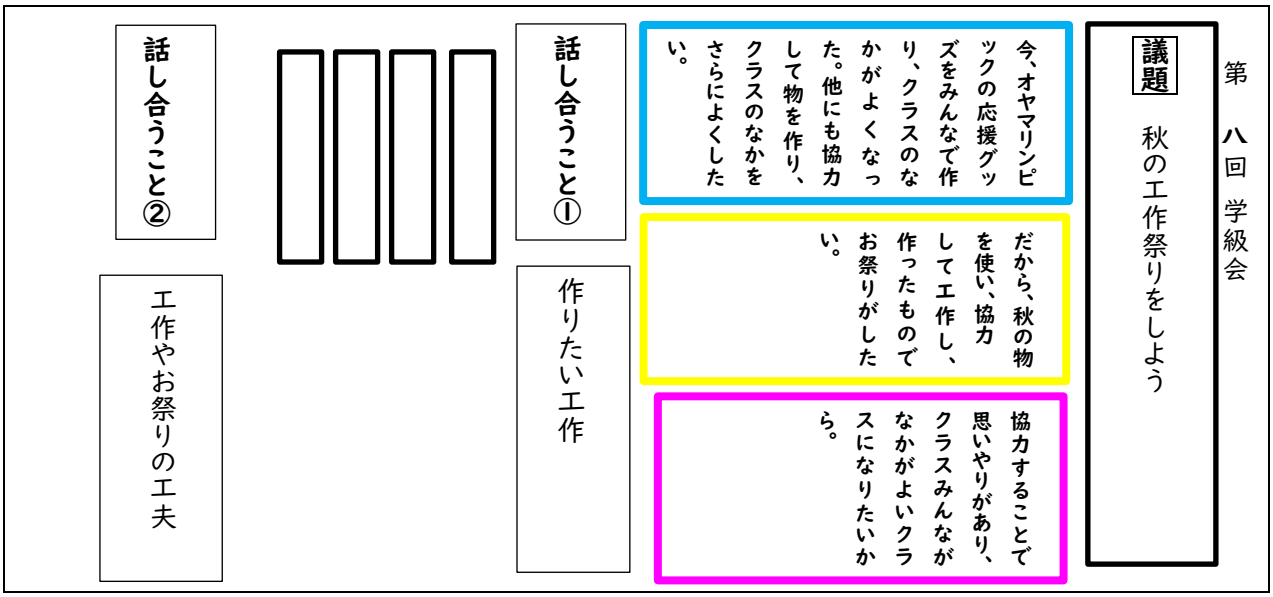
(4) 決まっていること

・秋のものを工作には入れること。
・お祭りは教室で行う。
・お祭りは工作と関係あるものにする。

(5)　教師の指導計画

	学習活動	・指導上の留意点　〇評価(評価方法)
導入	1 始めの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 話合いのめあての確認 「一人一人役割を理解して学級会に取り組もう。」 6 決まっていることの確認	自己理解① ・ワークシートに自分の考えを事前に書いているので、それを活用することで話合いに参加しやすくする。 ・各自設定しためあてを基に、発言だけでなくリアクションでも話合いに参加するようにする。 他者受容① ・異なる意見の背景にある友達の「学級をよくしたい」という願いや思いに目を向け、互いの意見の良さを生かしたり、「心配意見」をどうしたらよくなるかの視点で発言したりできるようにする。
展開	7 話合い　自　他 話し合うこと (1) 工作は何を作るか (2) お祭りの工夫やみんなが楽しくできるための工夫	・自治的な活動の範囲外に自分たちで気付かないなど、必要な場合は助言をする。特に人権的配慮が必要な場合は指導をする。 ・児童の活動の様子(発言、行動、つぶやき)を記録し、終末の助言で取り上げる。 〇秋の工作祭りを学級全体で協力して行うためには、どのような工作や工作の工夫、お祭りの工夫がよいか考え、発言したり、リアクションをとったりしている。 （観察、記録） 〇多様な考えを聞き合うなかで、それぞれの意見のよさを比べ合い、意見をよりよくしながら話し合っている。 （観察、記録）
終末	8 決まったことの発表 9 振り返り　自　他 10 先生の話 11 終わりの言葉	自己理解②　他者受容② ・自分が設定しためあてに対してどうだったか、友達の考えがどのようによかったか、などの振り返りの視点を明確にする。 ・今までの振り返りを踏まえ、自分や友達のよかったところを振り返るように助言する。 ・本時に児童の言動の中から、よかったところを具体的に挙げて価値付けをし、次への意欲付けをする。 ・次回に向けた課題について助言する。

（6）板書計画



7 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点
11/20(金) 休み時間	・話合いで決めたことを基に、実践に向けて準備を進める。	・自分の役割を果たせるよう見守り、必要に応じて助言する。
11/21(土) 学活	・保護者や教員を呼び秋の工作祭りを行う。	・それぞれが役割を果たして、決めたことを実践できるように支援する。
11/25(水) 朝の会	・実践の終了後、振り返りをする。	・実践の振り返りをし、よかった点や改善点を次の一連の学習過程に生かすことができるよう、助言する。